

2009年10月29日

2009年度 第2四半期決算説明資料

・業績サマリー	P.2
・2009年度第2四半期 連結決算について	P.3 ~ 9
・2009年度 業績予想について	P.10 ~ 14
・新製品開発状況について	P.15 ~ 25
・その他	P.26 ~ 27

[注意事項]

- 1) 「平成22年3月期 第2四半期決算短信」並びに本説明資料は、2009年10月29日午後2時に大阪証券取引所及び東京証券取引所において記者発表し、公開しております。また同時刻に、これらの資料は東京証券取引所の「適時開示情報閲覧サービス」に掲載されています。
- 2) 「平成22年3月期 第2四半期決算短信」並びに本説明資料に記載されている通期の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、ドル、ユーロ等の対円為替相場などが含まれます。



田辺三菱製薬

< 目次 >

. 業績サマリー	…	2		
1. 2009年度上期 業績サマリー	2. 2009年度 業績予想サマリー	3. 配当金	…	2
. 2009年度第2四半期 連結決算について	…	3 ~ 9		
1. 損益状況	…	3 ~ 5		
損益実績	事業別売上高	売上原価 / 販売費及び一般管理費	…	3
主要製品売上高			…	4
営業外損益	特別損益	法人税等	…	5
2. 財務状況	…	6 ~ 7		
資産・負債・純資産の状況	主要項目の増減		…	6
キャッシュ・フロー計算書	設備投資 / 情報システム開発投資		…	7
減価償却費			…	7
3. 関係会社	…	8 ~ 9		
関係会社数	主要連結子会社の財務数値・従業員数		…	8
その他の連結子会社一覧	持分法適用非連結子会社一覧		…	9
持分法適用関連会社一覧			…	9
. 2009年度 業績予想について	…	10 ~ 14		
損益予想	事業別売上高予想		…	10
販売費及び一般管理費 / 総人件費予想			…	10
主要製品売上高予想			…	11
設備投資予想	情報システム開発投資予想	減価償却費予想	…	12
四半期業績推移 (損益計算書)			…	13
四半期業績推移 (主要製品売上高)			…	14
. 新製品開発状況について (2009年10月29日現在)	…	15 ~ 25		
1. 国内開発状況	…	15 ~ 16		
新規化合物		…	15	
効能追加		…	16	
2. 海外開発状況	…	17		
新規化合物	効能追加		…	17
3. 導出品の開発状況	…	18		
4. 2009年度第1四半期決算発表時点 (2009年7月30日) からの変更点	…	19		
5. 新製品開発状況補足資料 (2009年10月29日現在)	…	20 ~ 23		
国内 新規化合物		…	20	
国内 効能追加		…	21	
海外 新規化合物	海外 効能追加		…	22
導出品		…	23	
< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料	…	24 ~ 25		
. その他	…	26 ~ 27		
1. 株式の状況	…	26		
発行済株式数	配当金推移	大株主の状況	…	26
所有者別株式数分布状況	外国人持株比率		…	26
2. その他関連データ	…	27		
従業員数 (就業人員数) 推移	2009年4月以降のトピックス		…	27

業績サマリー

(億円未満四捨五入)

1. 2009年度上期 業績サマリー

売上高	1,982 億円	対前年同期比	81 億円	3.9 %
医薬品事業	1,934 億円	対前年同期比	25 億円	1.3 %
その他事業	48 億円	対前年同期比	106 億円	68.8 %

売上高は前年同期比81億円減収の1,982億円となった。

エーピーアイ コーポレーション(以下APIC)株式の一部売却により、同社を連結子会社から持分法適用関連会社に変更したことで、同146億円(医薬品事業61億円、その他事業85億円)の減収要因となった。

医薬品事業では、売上高は1,934億円となり、同25億円(1.3%)の増収となった。国内医療用医薬品は、抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード」、アレルギー性疾患治療剤「タリオン」、抗血小板剤「アンブラグ」、選択的 1遮断剤「メインテート」などが順調に推移したほか、ワクチンやジェネリック医薬品も増収となった。

一方、海外医療用医薬品は、円高の影響を受け減収となった。また、APICの連結除外による影響で、製造受託品(他社製品の医薬原体等)も大きく減収となった。

その他事業では、APICの連結除外による影響に加え、化成品が国内外で減収となり、売上高は同106億円減収の48億円となった。

各事業の主たる製品及び役務の内容

医薬品事業: 医療用医薬品、一般用医薬品

その他事業: 化成品、不動産賃貸業、情報サービス、宣伝製作物等

営業利益	275 億円	対前年同期比	66 億円	19.4 %
------	--------	--------	-------	--------

営業利益は275億円(前年同期比 66億円、 19.4%)となった。

APICの連結除外などにより、相対的に原価率の高いその他事業が大幅減収となったことで、売上高81億円の減収に対し、売上総利益は2億円の減益にとどまった。売上原価率は2.5ポイント改善し35.8%となった。米国ヴァーテックスとのMP-424のライセンス契約変更に伴う一時金の支払い(105百万ドル)により研究開発費が446億円(同+70億円、+18.5%)と大幅に増加したため、コスト削減の徹底やAPICの連結除外など減少要因があったものの、販売費及び一般管理費は998億円(同+65億円、+6.9%)となった。

経常利益	279 億円	対前年同期比	72 億円	20.6 %
------	--------	--------	-------	--------

四半期純利益	136 億円	対前年同期比	28 億円	17.3 %
--------	--------	--------	-------	--------

経常利益は279億円(前年同期比 72億円、 20.6%)、四半期純利益は136億円(同 28億円、 17.3%)となった。

本社移転に伴う遊休資産の減損損失が18億円、遺伝子組換え人血清アルブミン製剤「メドウェイ」の事業休止関連損失が17億円、本社移転関連費用など構造改革費用が5億円など、47億円の特別損失が発生した。

2. 2009年度 業績予想サマリー

売上高	4,080 億円	対前年同期比	68 億円	1.6 %
医薬品事業	3,981 億円	対前年同期比	109 億円	2.8 %
その他事業	99 億円	対前年同期比	176 億円	64.0 %
営業利益	635 億円	対前年同期比	82 億円	11.4 %
経常利益	635 億円	対前年同期比	91 億円	12.5 %
当期純利益	325 億円	対前年同期比	60 億円	22.5 %

3. 配当金

	2008年度		2009年度	
	2Q末	年間	2Q末	年間(予想)
1株当たり配当金(円)	14	28	14	28
配当性向	36.7%	37.6%	42.3%	36.9%

(注) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益と年間配当金から算出している。

2009年度第2四半期 連結決算について

1. 損益状況

損益実績

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	対前年同期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	当初予想(注1)	増減額	増減率%
売上高	206,339	198,239	8,100	3.9	199,500	1,261	0.6
売上原価	78,940	71,005	7,935	10.1	74,000	2,995	4.0
売上原価率	38.3%	35.8%			37.1%		
販管費	93,324	99,778	6,454	6.9	103,000	3,222	3.1
販管費比率	45.2%	50.3%			51.6%		
営業利益	34,075	27,456	6,619	19.4	22,500	4,956	22.0
経常利益	35,140	27,910	7,230	20.6	22,500	5,410	24.0
特別利益	71	77	6	8.5	-	77	-
特別損失	4,838	4,668	170	3.5	2,500	2,168	86.7
四半期純利益	16,381	13,552	2,829	17.3	10,000	3,552	35.5

事業別売上高

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	対前年同期比較		対予想比較			主なポイント(対前年同期比較)
			増減額	増減率%	当初予想(注1)	増減額	増減率%	
医薬品事業	190,951	193,435	2,484	1.3	193,000	435	0.2	国内医療用医薬品 +70億円 海外医療用医薬品 21億円 製造受託品 20億円 詳細は4ページ、主要製品売上高を参照
構成比	92.5%	97.6%			96.7%			
(国内)	(176,364)	(181,235)	(4,871)	(2.8)	(181,500)	(265)	(0.1)	
(海外)	(14,587)	(12,200)	(2,387)	(16.4)	(11,500)	(700)	(6.1)	
その他事業	15,388	4,804	10,584	68.8	6,500	1,696	26.1	化成品の減少
構成比	7.5%	2.4%			3.3%			
(国内)	(10,945)	(3,509)	(7,436)	(67.9)	(4,500)	(991)	(22.0)	
(海外)	(4,443)	(1,295)	(3,148)	(70.9)	(2,000)	(705)	(35.3)	
売上高合計	206,339	198,239	8,100	3.9	199,500	1,261	0.6	海外売上高比率 2008年度上期:9.2% 2009年度上期:6.8% 平均為替レート 2008年度上期:1US\$ = 104.61円 2009年度上期:1US\$ = 95.98円
構成比	100.0%	100.0%			100.0%			
(国内)	(187,309)	(184,744)	(2,565)	(1.4)	(186,000)	(1,256)	(0.7)	
(海外)	(19,030)	(13,495)	(5,535)	(29.1)	(13,500)	(5)	(0.0)	

売上原価 / 販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	対前年同期比較		対予想比較			主なポイント(対前年同期比較)
			増減額	増減率%	当初予想(注1)	増減額	増減率%	
売上原価	78,940	71,005	7,935	10.1	74,000	2,995	4.0	APICの連結除外の影響等で売上原価率が改善
比率	38.3%	35.8%			37.1%			
販管費	93,324	99,778	6,454	6.9	103,000	3,222	3.1	
比率	45.2%	50.3%			51.6%			
研究開発費	37,617	44,567	6,950	18.5	47,000	2,433	5.2	MP-424のライセンス契約変更に伴う対価の支払いなどによる増加
比率	18.2%	22.5%			23.6%			
人件費	25,241	26,219	978	3.9	25,600	619	2.4	退職給付費用の増加など
販売促進費	5,723	5,629	94	1.6	5,800	171	2.9	
のれん償却額	5,027	5,067	40	0.8	5,000	67	1.3	
(注2)								
その他	19,716	18,296	1,420	7.2	19,600	1,304	6.7	広告宣伝費、旅費交通費など全般的に減少
総人件費	46,150	44,644	1,506	3.3	44,500	144	0.3	

(注1)2009年5月8日 2008年度決算発表時の公表数値

(注2)合併に係るのれん1,505億円を15年償却

主要製品売上高

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度上期	2009年度上期	対前年同期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	当初予想(注1)	増減額	増減率%
医療用医薬品	1,881	1,908	27	1.4	1,900	8	0.4
国内医療用医薬品	1,651	1,721	70	4.2	1,725	4	0.2
レミケード	177	227	50	28.1	227	1	0.2
ラジカット	139	139	0	0.1	138	0	0.3
アンブラーグ	91	95	4	4.8	99	4	3.6
セレジスト	82	84	2	3.0	86	1	1.7
ウルソ	80	83	2	2.7	82	0	0.1
デバス	59	59	0	0.4	59	0	0.1
タナトリル	61	58	3	4.7	60	2	4.0
ヘルベッサー	60	56	4	7.4	57	2	3.1
メインテート	50	55	4	8.6	53	2	4.0
ヴェノグロブリン - IH	56	49	6	10.8	52	3	4.8
タリオン	35	41	6	17.5	41	0	0.5
リブル	43	41	2	3.6	42	0	1.0
サアミオン	42	38	4	8.5	38	0	1.2
ノイアート	28	29	1	2.1	28	1	1.9
オメブラゾン	28	29	0	0.0	28	1	2.9
ノバスタン	15	15	0	0.2	16	1	5.4
ワクチン	103	131	28	27.1	105	26	25.0
(内、ミールピック)	(72)	(78)	(6)	(8.3)	(73)	(5)	(6.4)
(内、インフルエンザ)	(14)	(24)	(11)	(78.4)	(12)	(12)	(102.7)
ジェネリック(注2)	19	35	16	81.1	36	1	3.4
海外医療用医薬品	134	113	21	15.4	110	3	3.0
ヘルベッサー	31	25	6	19.1	23	1	5.5
アルガトロバン (ノバスタン)	20	17	2	10.9	17	0	0.5
タナトリル	13	10	3	22.9	11	2	14.6
ワクチン	12	7	5	42.1	6	1	10.8
製造受託品(注3)	73	53	20	27.5	51	2	4.0
技術導出契約金等	23	20	2	10.6	14	6	45.6
一般用医薬品	29	27	2	7.0	30	3	11.3
医薬品事業	1,910	1,934	25	1.3	1,930	4	0.2
その他事業	154	48	106	68.8	65	17	26.1
売上高合計	2,063	1,982	81	3.9	1,995	13	0.6

(注1)2009年5月8日 2008年度決算発表時の公表数値

(注2)田辺製薬販売の取扱品

(注3)他社製品の医薬原体等

営業外損益

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	主なポイント
営業外収益	2,254	1,807	447	
受取利息	1,161	932	229	
受取配当金	463	434	29	
為替差益	200	-	200	
持分法による投資利益	36	83	47	
その他	394	358	36	
営業外費用	1,189	1,353	164	
支払利息	45	16	29	
固定資産除却損	391	233	158	
為替差損	-	233	233	
寄付金	206	161	45	
その他	547	710	163	

特別損益

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	主なポイント
特別利益	71	77	6	
投資有価証券売却益	9	77	68	
事業譲渡益	45	-	45	
固定資産売却益	17	-	17	
特別損失	4,838	4,668	170	
減損損失	639	1,824	1,185	当期) 本社移転 前期) 名張第2研修所閉鎖
事業休止関連損失	-	1,699	1,699	メドウェイ事業休止に伴う費用
構造改革費用	-	528	528	本社移転費用など
投資有価証券評価損	97	263	166	
特別退職金	3,916	-	3,916	前期) 217名
その他	186	354	168	

法人税等

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	主なポイント
税金等調整前当期純利益	30,373	23,319	7,054	法定実効税率 40.6%
法人税、住民税及び事業税	13,980	9,923	4,057	調整) 交際費等永久に損金に算入されない項目 3.9% 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 4.4% 住民税均等割 0.3% 試験研究費の特別控除 10.3% のれん償却額 8.8% 受取配当金の消去 4.1% その他 2.1%
法人税等調整額	268	589	857	税効果会計適用後の法人税等の負担率 45.1%
少数株主利益	280	745	1,025	
四半期純利益	16,381	13,552	2,829	

2. 財務状況

資産・負債・純資産の状況

(単位: 百万円)

	2008年度末	2009年度 第2四半期末	構成比%	増減額	主なポイント
総資産	810,756	784,778	100.0	25,978	
流動資産	364,444	342,978	43.7	21,466	現金及び預金 56億円、有価証券 101億円、売上債権(注1) 6億円、たな卸資産 90億円、短期貸付金 +50億円、繰延税金資産 11億円
固定資産	446,312	441,800	56.3	4,512	有形固定資産 130億円、無形固定資産 42億円、投資有価証券 +149億円、前払年金費用 +3億円、その他の投資等 25億円
負債	144,536	116,122	14.8	28,414	
流動負債	89,150	73,689	9.4	15,461	仕入債務(注2) +22億円、未払金 50億円、未払法人税等 50億円、その他の流動負債 26億円
固定負債	55,386	42,433	5.4	12,953	繰延税金負債 5億円、退職給付引当金 22億円、スモン訴訟健康管理手当等引当金 3億円、HCV訴訟損失引当金 108億円、その他固定負債 +8億円
純資産	666,220	668,656	85.2	2,436	
株主資本	665,623	671,483	85.6	5,860	利益剰余金 +59億円
評価・換算差額等	13,161	9,949	1.3	3,212	その他有価証券評価差額金 +28億円
少数株主持分	13,758	7,122	0.9	6,636	

主要項目の増減

(単位: 百万円)

	2008年度末	2009年度 第2四半期末	増減額	主なポイント
現金及び預金	23,931	18,368	5,563	P7「キャッシュ・フロー計算書」参照
有価証券	67,680	57,593	10,087	譲渡性預金の減少、国債の増加など
売上債権(注1) (売上債権回転月数)	128,130 (3.71)	127,539 (3.86)	591 (0.15)	
たな卸資産	77,692	68,730	8,962	主にAPIC連結除外に伴う減少
短期貸付金	50,410	55,378	4,968	主にAPIC連結除外に伴う増加
繰延税金資産	12,975	11,917	1,058	
その他の流動資産	3,626	3,453	173	
有形固定資産	131,797	118,795	13,002	設備投資 +31億円、APIC連結除外 86億円、減価償却 59億円、減損 18億円
無形固定資産	139,651	135,479	4,172	情報システム開発投資 +10億円、のれん償却 51億円、減価償却 5億円
投資有価証券	114,785	129,686	14,901	国債取得、時価評価による増加など
前払年金費用	35,475	35,741	266	
その他の投資等	24,604	22,099	2,505	
仕入債務(注2)	26,093	28,278	2,185	ワクチンの債務増加など
未払金	20,944	15,937	5,007	
未払法人税等	14,621	9,580	5,041	
その他の流動負債	20,053	17,458	2,595	
有利子負債	7,469	2,662	4,807	
短期借入金(注3)	7,299	2,406	4,893	主にAPIC連結除外に伴う減少
長期借入金(注4)	170	256	86	
繰延税金負債	11,673	11,139	534	
退職給付引当金	15,944	13,716	2,228	主にAPIC連結除外に伴う減少
HIV訴訟健康管理手当等引当金	1,728	1,658	70	
スモン訴訟健康管理手当等引当金	4,634	4,324	310	
HCV訴訟損失引当金	20,000	9,160	10,840	和解金の支払いに伴う取り崩し
その他の固定負債	1,377	2,210	833	
資本金	50,000	50,000	-	
資本剰余金	451,186	451,185	1	
利益剰余金	164,712	170,564	5,852	四半期純利益 +136億円、配当金支払い 79億円
自己株式	275	266	9	
その他有価証券評価差額金	5,605	2,796	2,809	

(注1) 売上債権 = 受取手形 + 売掛金 (注2) 仕入債務 = 支払手形(除く営業外支払手形) + 買掛金

(注3, 4) 借入金...1年以内返済予定長期借入金は長期借入金に含めた。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	2008年度	主なポイント
現金・現金同等物期首残高	160,096	116,903	43,193	160,096	
営業キャッシュ・フロー	26,580	2,846	23,734	50,540	
投資キャッシュ・フロー	91,682	37,736	53,946	74,508	有価証券の取得・売却 +256億円 (前期 400億円、当期 143億円) 定期預金の預入・払戻 +5億円 (前期 5億円、当期 1億円) 長期預金の預入 6億円 (前期 -, 当期 6億円) 有形固定資産の取得・売却 7億円 (前期 31億円、当期 38億円) 無形固定資産の取得 5億円 (前期 7億円、当期 12億円) 投資有価証券の取得・売却 +288億円 (前期 476億円、当期 188億円)
財務キャッシュ・フロー	8,426	9,002	576	15,986	配当金の支払 6億円 (前期 73億円、当期 79億円)
現金・現金同等物に係る換算差額	848	519	1,367	3,239	
現金・現金同等物の増減額	74,376	43,373	31,003	43,193	
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	190	190	-	
現金・現金同等物期末残高	85,720	73,720	12,000	116,903	

* 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係 (単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期
現金及び預金	21,316	18,368
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	1,299	1,450
取得日から3ヵ月以内に償還期限が到来する有価証券	15,000	6,000
短期貸付金に含まれる現金及び現金同等物	50,703	50,802
現金及び現金同等物	85,720	73,720

設備投資 / 情報システム開発投資

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	2008年度
設備投資額 / 発生ベース	6,244	3,129	3,115	12,175
システム投資額 / 発生ベース	682	1,043	361	1,711

< 2009年度上期の主な取得設備 >

田辺三菱製薬	10億円
田辺三菱製薬工場 ・鹿島工場包装設備	14億円 (6億円)
三菱製薬(広州) ・輸液バッグ生産設備	3億円 (3億円)

< 2009年度上期の主な情報システム開発投資 >

田辺三菱製薬	7億円
--------	-----

減価償却費

(単位:百万円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額	2008年度
有形固定資産	6,782	5,856	926	14,581
無形固定資産	563	473	90	1,077

3. 関係会社

関係会社数

	2008年度末	2009年度 第2四半期末	増減数	特記事項
連結子会社数	30	28	2	増加)MT ファーマ アメリカ(注) 減少)エービーアイ コーポレーション、 ウェルファイトサービス、アルケマ吉富
非連結子会社	5	5	-	増加)広東田辺医薬 減少)長生薬品
関連会社数	5	5	-	増加)エービーアイ コーポレーション、 アルケマ吉富 減少)小倉美術印刷、広東田辺医薬
合計	40	38	2	

(注)2009年10月1日付で社名を「ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ」に変更

主要連結子会社の財務数値・従業員数

(単位:百万円)

項目	会社名	期	吉富薬品	ベネシス	田辺三菱製薬工場	三菱製薬(広州)	天津田辺製薬
決算期			3月末	3月末	3月末	12月末	12月末
資本金		2009年度2Q末	385	3,000	1,130	1,269	1,261
		2008年度末	385	3,000	1,130	1,269	1,261
		2008年度2Q末	385	3,000	1,130	1,269	1,261
議決権 所有割合		2009年度2Q末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%
		2008年度末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%
		2008年度2Q末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%
総資産		2009年度2Q末	6,063	27,361	53,684	5,118	1,879
		2008年度末	6,203	29,181	47,593	4,565	1,856
		2008年度2Q末	5,620	28,148	50,071	4,500	1,907
純資産		2009年度2Q末	5,082	23,058	33,530	3,814	1,487
		2008年度末	4,848	24,508	29,858	3,430	1,334
		2008年度2Q末	4,493	23,595	28,985	3,726	1,551
売上高		2009年度上期	3,150	6,789	25,340	1,643	1,038
		2008年度	6,476	17,311	42,485	3,677	2,049
		2008年度上期	3,175	9,076	18,758	1,777	958
営業利益		2009年度上期	1,056	822	1,382	244	113
		2008年度	2,142	2,806	1,924	646	177
		2008年度上期	1,039	1,289	888	292	116
経常利益		2009年度上期	1,062	793	1,338	245	113
		2008年度	2,156	2,780	1,770	653	174
		2008年度上期	1,045	1,280	776	295	113
純損益		2009年度上期	566	585	906	196	80
		2008年度	1,151	1,730	1,302	504	88
		2008年度上期	556	817	429	242	84
研究開発費		2009年度上期	-	1,242	596	9	-
		2008年度	-	2,710	743	22	3
		2008年度上期	-	1,452	354	12	-
有形固定資産 減価償却費		2009年度上期	-	595	1,913	51	31
		2008年度	1	1,409	3,507	104	67
		2008年度上期	1	693	1,526	52	34
従業員数		2009年度2Q末	239	571	1,022	412	343
		2008年度末	237	480	822	406	330
		2008年度2Q末	234	433	771	419	317

③ その他の連結子会社一覧

(2009年9月30日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	MPロジスティクス(株)	95	65.0 (—)	3月末
2	(株)バイファ	7,500	51.0 (—)	3月末
3	田辺製薬吉城工場(株)	400	100.0 (—)	3月末
4	田辺製薬販売(株)	70	92.7 (7.7)	3月末
5	(株)田辺アールアンドディー・サービス	44	100.0 (—)	3月末
6	田辺総合サービス(株)	90	100.0 (—)	3月末
7	ウェルファイド・インターナショナル・コーポレーション	US\$36,816,000	100.0 (—)	12月末
8	アルファ・テラピュティック・コーポレーション	US\$50,000,000	100.0 (100.0)	12月末
9	MP ヘルスケア ベンチャー マネジメント	US\$100	65.0 (—)	12月末
10	タナベ ホールディング アメリカ(注1)	US\$166	100.0 (—)	12月末
11	タナベ リサーチ ラボラトリーズ U.S.A.	US\$3,000,000	100.0 (100.0)	12月末
12	タナベ U.S.A.	US\$1,400,000	100.0 (100.0)	12月末
13	タナベ ファーマ デベロップメント アメリカ エルエルシー	—	— (—)	12月末
14	ミツビシ ファーマ アメリカ(注2)	US\$100	100.0 (100.0)	12月末
15	MT ファーマ アメリカ(注3)	US\$100	100.0 (100.0)	12月末
16	三菱製薬開発(北京)有限公司	US\$1,000,000	100.0 (—)	12月末
17	台湾田辺製薬股份有限公司	NT\$90,000,000	65.0 (—)	12月末
18	台田薬品股份有限公司	NT\$20,000,000	65.0 (—)	12月末
19	タナベ インドネシア	US\$2,500,000	99.6 (—)	12月末
20	ウェルファイド コリア(株)	KRW 2,100,000,000	100.0 (—)	12月末
21	ミツビシ ファーマ ヨーロッパ	£4,632,000	100.0 (—)	12月末
22	ミツビシ ファーマ ドイツ	EUR 25,000	100.0 (100.0)	12月末
23	タナベ ヨーロッパ	EUR 260,330	100.0 (—)	12月末

(注1)2009年10月1日付で社名を「ミツビシ タナベ ファーマ ホールディングス アメリカ」に変更

(注2)2009年10月1日付で社名を「ミツビシ タナベ ファーマ ディベロップメント アメリカ」に変更

(注3)2009年10月1日付で社名を「ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ」に変更

④ 持分法適用非連結子会社一覧

(2009年9月30日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	長生堂製薬(株)	340	51.0 (—)	12月末
2	ホシエヌ製薬(株)	75	51.0 (51.0)	3月末
3	広東田辺医薬有限公司	43	100.0 (—)	12月末

⑤ 持分法適用関連会社一覧

(2009年9月30日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	(株)エーピーアイ コーポレーション	4,000	47.7 (—)	3月末
2	興栄商事(株)	10	50.0 (—)	7月末
3	サンケミカル(株)	342	48.3 (—)	3月末
4	サンテラボ・タナベ シミイ	EUR 1,600,000	50.0 (—)	12月末

. 2009年度 業績予想について

損益予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%	主なポイント
売上高	2,084	2,098	13	0.6	4,148	4,080	68	1.6	
売上原価	792	775	17	2.2	1,582	1,485	97	6.1	APICの連結除外などによる売上原価率の改善
売上原価率	38.0%	36.9%			38.1%	36.4%			
販管費	916	962	47	5.1	1,849	1,960	111	6.0	
販管費比率	43.9%	45.9%			44.6%	48.0%			
営業利益	376	360	16	4.2	717	635	82	11.4	
経常利益	374	356	19	4.9	726	635	91	12.5	
特別利益	11	0	11	98.0	12	1	11	91.7	
特別損失	210	34	175	83.6	258	81	177	68.6	事業休止関連損失、本社移転に伴う減損損失など
当期純利益	102	189	88	86.7	265	325	60	22.5	

事業別売上高予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%	主なポイント
医薬品事業	1,963	2,047	84	4.3	3,872	3,981	109	2.8	詳細は11ページ、主要製品売上高予想を参照
構成比	94.2%	97.6%			93.4%	97.6%			
(国内)	(1,830)	(1,920)	(90)	(4.9)	(3,594)	(3,732)	(138)	(3.8)	
(海外)	(133)	(127)	(6)	(4.3)	(279)	(249)	(30)	(10.6)	
その他事業	121	51	70	58.0	275	99	176	64.0	
構成比	5.8%	2.4%			6.6%	2.4%			
(国内)	(92)	(38)	(54)	(58.9)	(202)	(73)	(129)	(63.8)	
(海外)	(29)	(13)	(16)	(55.1)	(74)	(26)	(48)	(64.6)	
売上高合計	2,084	2,098	13	0.6	4,148	4,080	68	1.6	海外売上高比率 2008年度:8.5% 2009年度通期予想:6.7% 計画為替レート 1US\$ = 95円
構成比	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%			
(国内)	(1,922)	(1,958)	(35)	(1.8)	(3,795)	(3,805)	(10)	(0.3)	
(海外)	(162)	(140)	(22)	(13.4)	(352)	(275)	(77)	(21.9)	

販売費及び一般管理費 / 総人件費予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%	主なポイント
販管費	916	962	47	5.1	1,849	1,960	111	6.0	
研究開発費	355	394	39	11.1	731	840	109	14.9	研究開発比率:20.6%
人件費	248	261	13	5.2	500	523	23	4.6	退職給付費用の増加など
販売促進費	60	60	0	0.3	117	116	1	0.7	
のれん償却額(注)	50	50	0	0.1	101	101	0	0.4	
その他	203	197	6	2.8	400	380	20	5.0	
総人件費	450	448	3	0.6	912	894	18	1.9	

(注)1,505億円を15年償却

主要製品売上高予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
医療用医薬品	1,939	2,022	84	4.3	3,819	3,930	111	2.9
国内医療用医薬品	1,703	1,842	139	8.1	3,354	3,563	209	6.2
レミケード	196	241	44	22.6	374	468	94	25.2
ラジカット	142	139	3	2.1	281	278	3	1.0
アンブラーグ	94	94	0	0.1	185	189	4	2.4
セレジスト	81	86	5	6.0	162	170	7	4.5
ウルソ	82	84	2	2.5	162	166	4	2.6
デバス	59	59	0	0.4	118	118	0	0.0
タナトリル	59	55	4	6.8	119	112	7	5.8
ヘルベッサー	59	55	4	6.3	119	111	8	6.9
メインテート	52	55	3	6.2	102	110	8	7.4
ヴェノグロブリン - IH	55	53	1	2.3	110	103	7	6.6
タリオン	69	81	12	17.7	104	122	18	17.6
リプル	44	43	1	2.8	87	84	3	3.2
サアミオン	39	35	4	10.1	81	73	8	9.3
ノイアート	29	30	1	4.3	57	58	2	3.2
オメブラゾン	29	28	1	2.9	57	56	1	1.5
ノバスタン	15	15	0	2.0	30	30	0	0.9
ワクチン	112	102	11	9.5	215	232	17	8.0
(内、ミールピック)	(46)	(47)	(0)	(1.0)	(118)	(125)	(6)	(5.4)
(内、インフルエンザ)	(53)	(41)	(12)	(23.4)	(67)	(65)	(2)	(2.8)
ジェネリック(注1)	20	51	31	151.7	40	86	47	117.2
海外医療用医薬品	119	122	3	2.8	253	235	17	6.9
ヘルベッサー	23	22	1	4.1	54	47	7	12.7
アルガトロバン (ノバスタン)	17	19	1	8.0	37	36	1	2.0
タナトリル	10	11	1	9.3	23	21	2	8.4
ワクチン	6	6	1	12.9	17	13	4	24.3
製造受託品(注2)	102	53	49	48.3	175	106	70	39.6
技術導出契約金等	14	5	9	62.1	37	26	11	30.3
一般用医薬品	24	24	0	0.8	53	51	2	3.4
医薬品事業	1,963	2,047	84	4.3	3,872	3,981	109	2.8
その他事業	121	51	70	58.0	275	99	176	64.0
売上高合計	2,084	2,098	13	0.6	4,148	4,080	68	1.6

(注1) 田辺製薬販売の取扱品

(注2) 他社製品の医薬原体等

設備投資予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
設備投資額 / 発生ベース	59	39	20	34.1	122	70	51	42.2

< 2009年度下期の主な取得予定設備 >

・研究関係設備	12億円
・生産関係設備	18億円
・その他	9億円

情報システム開発投資予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
システム投資額 / 発生ベース	10	4	6	57.9	17	15	2	13.7

< 2009年度下期の主なシステム投資予定 >

・研究開発関係システム	1億円
・生産関係システム	2億円
・その他	1億円

減価償却費予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 下期実績	2009年度 下期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
有形固定資産	78	68	10	12.8	146	127	19	13.2
無形固定資産	5	6	1	17.1	11	11	0	0.2

四半期業績推移(損益計算書)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度					2009年度			
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	下期予想	通期予想
売上高	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	1,008 24.7%	975 23.9%	2,098 51.4%	4,080 100.0%
(国内)	(992) (26.1%)	(881) (23.2%)	(1,101) (29.0%)	(822) (21.6%)	(3,795) (100.0%)	(945) (24.8%)	(902) (23.7%)	(1,958) (51.4%)	(3,805) (100.0%)
(海外)	(91) (25.8%)	(100) (28.3%)	(89) (25.3%)	(73) (20.6%)	(352) (100.0%)	(62) (22.7%)	(72) (26.3%)	(140) (50.9%)	(275) (100.0%)
医薬品事業	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	982 24.7%	952 23.9%	2,047 51.4%	3,981 100.0%
(国内)	(937) (26.1%)	(827) (23.0%)	(1,046) (29.1%)	(784) (21.8%)	(3,594) (100.0%)	(928) (24.9%)	(885) (23.7%)	(1,920) (51.4%)	(3,732) (100.0%)
(海外)	(69) (24.9%)	(76) (27.4%)	(69) (24.9%)	(63) (22.7%)	(279) (100.0%)	(54) (21.8%)	(68) (27.2%)	(127) (51.0%)	(249) (100.0%)
その他事業	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	26 26.2%	22 22.4%	51 51.5%	99 100.0%
(国内)	(55) (27.2%)	(55) (27.0%)	(55) (27.3%)	(37) (18.5%)	(202) (100.0%)	(18) (24.1%)	(17) (24.0%)	(38) (51.9%)	(73) (100.0%)
(海外)	(21) (29.0%)	(23) (31.4%)	(20) (26.7%)	(9) (12.9%)	(74) (100.0%)	(8) (31.9%)	(5) (17.9%)	(13) (50.2%)	(26) (100.0%)
売上原価	396	394	450	343	1,582	359	351	775	1,485
売上原価率	36.6%	40.1%	37.8%	38.3%	38.1%	35.6%	36.0%	36.9%	36.4%
販売費及び 一般管理費	433 23.4%	500 27.1%	430 23.3%	486 26.3%	1,849 100.0%	423 21.6%	575 29.3%	962 49.1%	1,960 100.0%
研究開発費	163 22.3%	213 29.2%	163 22.3%	192 26.3%	731 100.0%	162 19.2%	284 33.8%	394 46.9%	840 100.0%
人件費	126 25.1%	127 25.4%	123 24.5%	125 25.0%	500 100.0%	127 24.2%	135 25.9%	261 49.9%	523 100.0%
販売促進費	23 19.9%	34 29.1%	30 25.5%	30 25.5%	117 100.0%	23 19.8%	33 28.7%	60 51.5%	116 100.0%
のれん償却額	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%	25 25.1%	25 25.1%	50 49.8%	101 100.0%
その他	96 24.0%	101 25.3%	89 22.3%	113 28.4%	400 100.0%	86 22.7%	97 25.4%	197 51.9%	380 100.0%
営業利益	254 35.4%	87 12.1%	310 43.3%	66 9.2%	717 100.0%	226 35.6%	49 7.7%	360 56.8%	635 100.0%
経常利益	259 35.7%	92 12.7%	312 43.0%	62 8.5%	726 100.0%	231 36.3%	48 7.6%	356 56.0%	635 100.0%
四半期(当期) 純利益	146 55.2%	17 6.5%	157 59.3%	56 21.0%	265 100.0%	114 35.0%	22 6.7%	189 58.3%	325 100.0%

(注)各項目(売上原価を除く)の下段は進捗率を表示

四半期業績推移(主要製品売上高)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度					2009年度			
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	下期予想	通期予想
医療用医薬品	994 26.0%	887 23.2%	1,102 28.8%	837 21.9%	3,819 100.0%	971 24.7%	937 23.8%	2,022 51.5%	3,930 100.0%
国内医療用医薬品	880 26.2%	771 23.0%	985 29.4%	718 21.4%	3,354 100.0%	889 24.9%	832 23.4%	1,842 51.7%	3,563 100.0%
レミケード	89 23.7%	89 23.8%	109 29.2%	87 23.4%	374 100.0%	103 22.1%	124 26.5%	241 51.4%	468 100.0%
ラジカット	73 26.1%	65 23.3%	84 30.0%	58 20.7%	281 100.0%	72 25.8%	67 24.1%	139 50.1%	278 100.0%
アンブラーグ	49 26.5%	42 22.5%	54 29.1%	40 21.8%	185 100.0%	51 26.9%	44 23.3%	94 49.8%	189 100.0%
セレジスト	43 26.7%	38 23.6%	47 28.7%	34 21.0%	162 100.0%	44 26.0%	40 23.6%	86 50.4%	170 100.0%
ウルソ	43 26.4%	38 23.3%	46 28.6%	35 21.8%	162 100.0%	43 26.0%	39 23.7%	84 50.3%	166 100.0%
デパス	31 26.4%	28 23.6%	34 28.4%	25 21.5%	118 100.0%	31 26.3%	28 23.5%	59 50.2%	118 100.0%
タナトリル	34 28.6%	27 22.3%	35 29.0%	24 20.1%	119 100.0%	32 28.3%	26 23.2%	55 48.6%	112 100.0%
ヘルベッサー	33 27.7%	27 22.9%	34 28.9%	24 20.5%	119 100.0%	30 27.3%	26 23.1%	55 49.7%	111 100.0%
メインテート	27 26.6%	23 22.7%	29 28.8%	22 22.0%	102 100.0%	29 26.3%	26 23.5%	55 50.2%	110 100.0%
ヴェノグロブリン - IH	29 26.4%	26 23.9%	34 31.0%	21 18.7%	110 100.0%	25 24.7%	24 23.3%	53 51.9%	103 100.0%
タリオン	21 19.8%	15 14.1%	25 24.1%	44 42.0%	104 100.0%	24 19.4%	18 14.5%	81 66.2%	122 100.0%
リブル	23 26.6%	20 22.7%	25 29.3%	19 21.5%	87 100.0%	22 26.3%	19 22.8%	43 50.9%	84 100.0%
サアミオン	23 28.2%	19 23.2%	23 28.7%	16 19.9%	81 100.0%	21 28.0%	18 23.8%	35 48.2%	73 100.0%
ノイアート	14 25.4%	14 24.0%	18 32.3%	10 18.3%	57 100.0%	14 23.8%	15 25.1%	30 51.1%	58 100.0%
オメプラゾン	16 27.1%	13 22.7%	17 29.2%	12 21.0%	57 100.0%	15 27.1%	13 23.5%	28 49.4%	56 100.0%
ノバスタン	8 26.3%	7 23.6%	9 30.2%	6 19.9%	30 100.0%	8 25.7%	7 23.6%	15 50.7%	30 100.0%
ワクチン	54 25.3%	48 22.5%	73 33.8%	40 18.4%	215 100.0%	63 27.0%	68 29.2%	102 43.8%	232 100.0%
(内、ミールピック)	(46) (38.8%)	(26) (22.1%)	(19) (16.0%)	(27) (23.1%)	(118) (100.0%)	(49) (39.4%)	(29) (23.2%)	(47) (37.5%)	(125) (100.0%)
(内、インフルエンザ)	(0) (0.2%)	(14) (20.4%)	(49) (72.8%)	(5) (7.0%)	(67) (100.0%)	(0) (0.0%)	(24) (37.2%)	(41) (62.9%)	(65) (100.0%)
ジェネリック(注2)	10 25.3%	9 23.7%	11 28.0%	9 23.1%	40 100.0%	18 20.8%	17 20.0%	51 59.2%	86 100.0%
海外医療用医薬品	66 25.9%	68 27.1%	61 24.3%	57 22.6%	253 100.0%	53 22.3%	61 25.8%	122 51.8%	235 100.0%
ヘルベッサー	15 27.4%	16 29.8%	11 20.5%	12 22.3%	54 100.0%	12 25.6%	13 27.4%	22 47.0%	47 100.0%
アルガトロバン (ノバスタン)	10 26.9%	10 26.2%	8 21.5%	9 25.4%	37 100.0%	8 23.3%	9 25.0%	19 51.7%	36 100.0%
タナトリル	7 29.1%	6 25.9%	5 23.5%	5 21.5%	23 100.0%	4 19.9%	6 26.4%	11 53.7%	21 100.0%
ワクチン	5 29.6%	7 38.1%	3 17.1%	3 15.3%	17 100.0%	3 26.0%	3 25.8%	6 48.2%	13 100.0%
製造受託品(注3)	37 21.1%	36 20.7%	48 27.6%	54 30.7%	175 100.0%	26 24.7%	27 25.4%	53 49.9%	106 100.0%
技術導出契約金等	11 30.9%	11 30.8%	6 17.1%	8 21.1%	37 100.0%	3 13.1%	17 66.0%	5 20.8%	26 100.0%
一般用医薬品	13 24.0%	16 30.2%	13 25.5%	11 20.3%	53 100.0%	11 22.3%	15 29.8%	24 47.8%	51 100.0%
医薬品事業	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	982 24.7%	952 23.9%	2,047 51.4%	3,981 100.0%
その他事業	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	26 26.2%	22 22.4%	51 51.5%	99 100.0%
売上高合計	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	1,008 24.7%	975 23.9%	2,098 51.4%	4,080 100.0%

(注1)各項目の下段は進捗率を表示

(注2)田辺製薬販売の取扱品

(注3)他社製品の医薬原体等

・新製品開発状況について（2009年10月29日現在）

1. 国内開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	麻薬鎮痛剤 (癌性突出痛・口腔粘膜吸収剤)	申請中 (2008年8月)	米:セファロン	
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤 (気管支喘息) (アレルギー性鼻炎)	フェーズ3 フェーズ2	英:アストラゼネカ	
MP-424 (テラブレビル)	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎)	フェーズ3	米:ヴァーテックス	
MP-513 (テネグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ3	自社	
APTA-2217 (ロフルミラスト)	PDE4阻害剤 (気管支喘息) (COPD)	フェーズ2/3 フェーズ2/3	スイス:ナイコメッド	共同開発 (スイス:ナイコメッド)
CNTO148 (ゴリムマブ)	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (関節リウマチ)	フェーズ2/3	米:セントコア	共同開発 (ヤンセンファーマ)
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症*)	フェーズ2	自社	共同開発 (ノバルティスファーマ) (三井製糖)
MP-214 (カリブラジン)	D3/D2拮抗剤 (統合失調症)	フェーズ2	ハンガリー: ゲデオンリヒター	
MP-435	C5a拮抗剤 (関節リウマチ)	フェーズ1	自社	
TA-6666	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ1	自社	
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (糖尿病)	フェーズ1	自社	

*: 希少疾病用医薬品指定

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	ヒト免疫グロブリンG (免疫グロブリンG2欠乏症)	申請中 (1997年12月)	自社	
	(多発性筋炎・皮膚筋炎*)	申請中 (2003年5月)		
	(低・無ガンマグロブリン血症:用量の追加)	申請中 (2008年3月)		
	(全身性強皮症)	フェーズ3		
	(重症筋無力症*)	フェーズ3		
レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (乾癬)	申請中 (2008年2月)	米:セントコア	
	(強直性脊椎炎*)	申請中 (2008年9月)		
	(潰瘍性大腸炎)	申請中 (2009年6月)		
	(クローン病:用法・用量の変更)	フェーズ3		
バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)	ニューキノロン系合成抗菌製剤 (重症難治症例:用量の追加) (敗血症・肺炎球菌)	申請中 (2009年6月)	富山化学工業	共同開発 (富山化学工業)
オメプラゾン (オメプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の補助に伴う3疾患 胃MALTリンパ腫 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃 特発性血小板減少性紫斑病)	申請中 (2009年9月)	英:アストラゼネカ	共同申請
モディオダール (モダフィニル)	精神神経用剤 (閉塞性睡眠時無呼吸症候群)	フェーズ3	米:セファロン	共同開発 (アルフレッサファーマ)
ラジカット (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (筋萎縮性側索硬化症*)	フェーズ3	自社	
メインテート (ピソプロロール)	選択的 1遮断剤 (慢性心不全)	フェーズ3	独:メルク	
コレバイン (コレスチミド(JAN))	胆汁酸分泌制御 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
	リン吸収阻害作用 (高リン血症)	フェーズ1		

*: 希少疾病用医薬品指定

2. 海外開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-196 (コレステラン(INN))	リン吸収阻害剤 (高リン血症)	米国、欧州	フェーズ3	自社	
MP-146	尿毒症毒素吸着剤 (慢性腎臓病)	米国、欧州	フェーズ3	クレハ	
TA-6666	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	米国	フェーズ2	自社	
TA-5538	NK-1拮抗剤 (過活動膀胱)	欧州	フェーズ2	自社	
MCC-135 (カルダレット)	心筋内カルシウム調節剤 (心筋梗塞)	米国、欧州	フェーズ2	自社	
MCC-257	神経栄養因子賦活剤 (糖尿病性神経障害)	米国	フェーズ2	自社	
MT-2832	ビタミンD誘導体 (二次性副甲状腺機能亢進症)	米国・カナダ	フェーズ2	カナダ: サイトクローマ	
MCI-186 (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (脳梗塞急性期)	欧州	フェーズ2	自社	
MP-513 (テネグリプチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	欧州 米国	フェーズ2 フェーズ1	自社	
TA-5493	p38阻害剤 (関節リウマチ、乾癬)	欧州	フェーズ1	自社	
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン (安定化剤)	米国	フェーズ1	自社	
TA-8995	CETP阻害剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	
MP-124	PARP阻害剤 (脳梗塞急性期)	米国	フェーズ1	自社	
MP-136	PPAR 作動剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))	欧州	申請準備中	自社	

3. 導出品の開発状況

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	導出先
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症)	米国、欧州	フェーズ3	スイス:ノバルティスファーマ
TA-1790 (アバナフィル)	PDE5阻害剤 (勃起不全)	米国	フェーズ3	米:ヴィーヴァス
		韓国	フェーズ3	韓:チョンウェイ
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (糖尿病)	米国、欧州	フェーズ3	米:ジョンソン・エンド・ジョンソン
	(肥満)	米国、欧州	フェーズ2	
T-0047 (フィラテグラスト)	細胞接着阻害剤[4 7/ 4 1阻害剤] (多発性硬化症)	欧州	フェーズ2	英:グラクソ・スミスクライン
MKC-242	セロトニン1A作動剤 (不眠症)	米国	フェーズ2	米:メディシナ
TA-2005 (カルモテロール)	長時間作用性 2刺激剤 (喘息、COPD)	欧州	フェーズ2	伊:キエジー
MKC-231	神経新生促進剤 (うつ病 / 不安障害)	米国	フェーズ2	米:ブレインセルズ
Y-39983	ROCK阻害剤 (緑内障)	日本	フェーズ2	日:千寿製薬
MT-210	セロトニン2A / シグマ2拮抗剤 (統合失調症)	欧州	フェーズ2	仏:クレナイック
T-0128	I型DNAトポイソメラーゼ阻害剤 [DDS製剤:カンプトデシン誘導体] (悪性腫瘍)	欧州	フェーズ1	伊:メナリーニ
sTU-199 (テナトブラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (胃食道逆流症)	欧州	フェーズ1	仏:ネグマ(シデム)
MP-412	チロシンキナーゼ阻害剤 (悪性腫瘍)	米国	フェーズ1	米:アヴェオ
TT-138	3作動剤 (頻尿 / 尿失禁)	米国	フェーズ1	米:メディシナ

4 . 2009年度第1四半期決算発表時点（2009年7月30日）からの変更点

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	前回発表時点	2009年10月29日現在
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (HIT患者での経皮的冠動脈インターベンション(PCI):用量の追加)	欧州:申請中 (2009年5月)	欧州:9月承認
	(剤形追加)	記載なし	欧州:9月承認
MP-513 (テネグリプチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	日本:フェーズ2	日本:フェーズ3
		欧州:フェーズ1	欧州:フェーズ2
オメプラゾン (オメプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の補助に伴う 3疾患 胃MALTリンパ腫 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃 特発性血小板減少性紫斑病)	記載なし	共同申請 (2009年9月)
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (糖尿病)	欧州・米国:フェーズ2	欧州・米国:フェーズ3

5. 新製品開発状況補足資料 (2009年10月29日現在)

国内 新規化合物

TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	フェンタニルを口腔内の粘膜から速やかに吸収させることにより、癌に伴う突発性の疼痛に対して鎮痛効果を示す頓用剤。欧米では既に市販されている。セファロン(米)より導入。2008年8月申請。
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗作用を有する経口呼吸器疾患治療剤。喘息でフェーズ 3、アレルギー性鼻炎でフェーズ 2。
MP-424 (テラプレビル)	C型肝炎ウイルスのプロテアーゼNS3/4A阻害による経口投与可能なC型慢性肝疾患治療剤。ヴァーテックス(米)より導入。フェーズ 3。
MP-513 (テネリグリプチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ 3。
APTA-2217 (ロフルミラスト)	優れた抗炎症作用を有する、経口投与可能な呼吸器疾患治療剤。海外臨床試験で喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の両方に対して有効性が認められている。ナイコメッド(スイス)より導入。喘息でフェーズ 2/3、COPDでフェーズ 2/3。
CNTO148 (ゴリムマブ)	抗TNF モノクローナル抗体。セントコア(米)より導入。皮下注射剤の関節リウマチ治療薬として、ヤンセンファーマと共同でフェーズ 2/3。
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン-1-リン酸受容体モジュレーターで、海外ではノバルティス(スイス)により、多発性硬化症を対象にフェーズ 3。国内ではノバルティスファーマ、三井製糖と共同で多発性硬化症を対象にフェーズ 2。
MP-214 (カリプラジン)	ドパミンD3/D2受容体拮抗作用を有する。ゲデオリヒター(ハンガリー)より導入。統合失調症を対象にフェーズ 2。
MP-435	補体成分C5a受容体拮抗作用を有する経口の免疫調節剤。関節リウマチ治療を対象にフェーズ 1。
TA-6666	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ 1。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。糖尿病でフェーズ 1。

国内 効能追加

<p>献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)</p>	<p>(免疫グロブリンG2欠乏症)申請中。</p> <p>(多発性筋炎・皮膚筋炎(希少疾病用医薬品指定))申請中。当局の指示により、ステロイド治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎患者に対するヴェノグロブリンの有効性を確認するための追加臨床試験実施中。</p> <p>(低・無ガンマグロブリン血症:用量追加) 日本小児感染症学会から当局に要望書が提出されたことを受け、適応外通知に基づき申請中。</p> <p>(びまん型全身性強皮症)国内の臨床研究によって疾患の主要因である皮膚症状の改善に対してIVIgの有効性が見出され、海外においても有効性が報告されている。フェーズ3。</p> <p>(重症筋無力症(2009年9月11日付け希少疾病用医薬品指定))国内において血液浄化療法群を対照としたフェーズ3。</p>
<p>レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))</p>	<p>(乾癬)欧米で実施された検証的試験で尋常性乾癬、乾癬性関節炎に対し、レミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。国内においても乾癬患者を対象に2008年2月申請。</p> <p>(強直性脊椎炎)欧米で実施された検証的試験で強直性脊椎炎に対し、レミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。2008年6月希少疾病用医薬品指定。2008年9月申請。</p> <p>(潰瘍性大腸炎)欧米で実施された検証的試験で潰瘍性大腸炎にもレミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。国内においても潰瘍性大腸炎患者を対象に2009年6月申請。</p> <p>(クローン病)レミケードの増量効果を確認するため、維持療法中に効果不十分となった患者を対象にフェーズ3。</p>
<p>バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)</p>	<p>(重症難治症例:用量の追加)(敗血症・肺炎球菌)注射用ニューキノロン系抗菌製剤。2009年6月申請。</p>
<p>オメプラゾン (オメプラゾール)</p>	<p>プロトンポンプ阻害剤とアモキシシリン水和物、クラリスロマイシンまたはメトロニダゾールを用いた3剤併用によるヘリコバクター・ピロリ除菌治療の補助に伴う3疾患、胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、特発性血小板減少性紫斑病について、2009年9月に9社*共同で、公知の文献等を科学的根拠として申請。</p>
<p>モディオダール (モダフィニル)</p>	<p>(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)2008年5月に共同開発会社のアルフレッサファーマが申請したが、当局との相談の結果、追加データ取得のため、追加臨床試験フェーズ3を実施中。</p>
<p>ラジカット (エダラボン)</p>	<p>(筋萎縮性側索硬化症(希少疾病用医薬品指定))フェーズ3。</p>
<p>メインテート (ピソプロロール)</p>	<p>(慢性心不全)欧州で実施された大規模臨床試験(CIBIS 試験)でNYHA ~ 度の慢性心不全患者の延命効果を高めることが明らかにされた。国内では慢性心不全の効能追加のための臨床試験を実施し、2006年4月に申請した。その後当局との相談の結果、追加臨床試験が必要となりフェーズ3。</p>
<p>コレバイン (コレステミド(JAN))</p>	<p>(2型糖尿病)フェーズ2。</p> <p>(高リン血症)フェーズ1。</p>

*9社: 武田薬品工業株式会社、アストラゼネカ株式会社、田辺三菱製薬株式会社、エーザイ株式会社、協和発酵キリン株式会社、アステラス製薬株式会社、大正製薬株式会社、アボット ジャパン株式会社、塩野義製薬株式会社

海外 新規化合物

MCI-196 (コレステラン(INN))	陰イオン交換樹脂。欧米で腎透析患者における高リン血症を対象にフェーズ 3。日本では、高コレステロール血症治療薬として製品名コレバインで販売中。
MP-146	2006年11月にクレハ社から導入した経口の球状吸着炭。慢性腎臓病患者対象に欧州、北米、南米においてフェーズ 3。日本では製品名クレメジン®で他社が販売。
TA-6666	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。米国でフェーズ 2。
TA-5538	選択的NK-1(サブスタンスP)受容体拮抗剤。過活動膀胱を対象に欧州でフェーズ 2。
MCC-135 (カルダレット)	急性心筋梗塞患者における虚血再灌流後の心筋細胞内Ca ²⁺ 動態を改善することにより、心機能、及び予後の改善治療剤。欧米でフェーズ 2。
MCC-257	神経栄養因子の分泌促進及び作用増強による糖尿病性神経障害治療薬。米国でフェーズ 2。
MT-2832	2008年7月にサイトクロマ(カナダ)から導入。ビタミンDシグナル伝達を強力に活性化すると同時に、ビタミンDの不活性化をつかさどる酵素CYP24の阻害作用をあわせもつ新しいタイプのビタミンD誘導体。カナダにおいて慢性腎不全患者を対象に二次性副甲状腺機能亢進症でフェーズ 2。
MCI-186 (エダラボン)	世界初の脳保護剤(フリーラジカル消去剤)。脳梗塞急性期を対象に欧州でフェーズ 2。日本では製品名ラジカットで販売中。
MP-513 (テネリグリプチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。米国でフェーズ 1、欧州でフェーズ 2。
TA-5493	p38 MAP キナーゼ阻害作用により、TNF などの種々のサイトカイン産生を抑制し、抗炎症作用を示す。欧州で関節リウマチ、乾癬を対象にフェーズ 1。
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン。米国で安定化剤でフェーズ 1。
TA-8995	CETP阻害により、HDL-Cを増加させLDL-Cを低下させる脂質異常症治療剤。欧州でフェーズ 1。
MP-124	PARP酵素阻害により神経細胞の障害保護作用を示す。米国・カナダで脳梗塞急性期を対象にフェーズ 1。
MP-136	PPAR 作動剤。欧州において脂質異常症でフェーズ 1。

海外 効能追加

MCI-9038 (アルガトロバン)	(ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))ドイツ、オーストリア、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、オランダ、アイスランド、イタリアの8カ国で承認取得。欧州の他国への申請を準備中。
	(HIT患者での経皮的冠動脈インターベンション(PCI): 用量追加) 欧州で2009年9月に承認。
	(剤形追加) 複数回使用を可能とするマルチ・ドーズ・バイアル(MDV)について欧州で2009年9月に承認。

導出品

FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体に作用することにより、リンパ球をリンパ組織に留まらせる。導出先のノバルティスファーマが欧米を中心に多発性硬化症の患者を対象にフェーズ 3。
TA-1790 (アバナフィル)	即効性で、副作用の少ない勃起障害治療剤として創製。米国でヴィーヴァスによりフェーズ 3。韓国でジョンウェイによりフェーズ 3。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害薬。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。ジョンソン・エンド・ジョンソンにより欧州・米国で糖尿病を対象にフェーズ 3、肥満を対象にフェーズ 2。
T-0047 (フィラテグラスト)	白血球が炎症部位に浸潤する過程を抑える細胞接着阻害剤。同じ 4インテグリン受容体をターゲットとするモノクローナル抗体である多発性硬化症治療剤生物製剤「タイサブリ(一般名ナタリツマブ)」(バイオジェンアイデックおよびエラン)の使用患者さんによる有害事象により、米国食品医薬品局(FDA)が予防的な手段として臨床試験を中断していたが、2006年にタイサブリの販売再開が承認された。T-0047の臨床試験はグラクソ・スミスクラインによって欧州ほかでフェーズ 2を再開した。
MKC-242	セロトニン1A受容体の作動薬で、依存性が生じる可能性が低く即効性が期待される不安症やうつ病などの精神障害治療剤。米国メディシノバで不眠症を対象にフェーズ 2。
TA-2005 (カルモテロール)	喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の治療用薬で、選択的、早期作用性、長時間作用性 2刺激剤。欧州でキエージーによりフェーズ 2。
MKC-231	神経新生促進剤。米国でブレインセルズによりフェーズ 2。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。国内で千寿製薬によりフェーズ 2。
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 拮抗剤。仏:キレナイックによりフェーズ 2。
T-0128	新規カンプトテシン誘導体(活性本体)に高分子輸送体を結合させたプロドラッグ。効率的に腫瘍組織に到達させるDDS技術を利用した抗癌剤。欧州でメナリーニによりフェーズ 1。
sTU-199 (テナトブラゾール)	国内で開発していたTU-199の光学異性体で、ネグマ(仏)へ導出。欧米で実施されたフェーズ1試験のPK/PDにおいて、長い血中濃度半減期より1日1回投与で夜間における優れた胃酸コントロールが確認され、早期の症状改善や治癒が期待されている。子会社のシデムが胃食道逆流症を対象に、欧州でフェーズ 1。
MP-412	同クラスの抗癌剤の中でも、固形癌に対しより高い効果が期待される。米国でアヴェオによりフェーズ 1。
TT-138	3受容体作動作用を持つ頻尿・尿失禁治療剤。米国でメディシノバによりフェーズ 1。

< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料

レミケード (2002年5月発売) 【薬効】抗ヒトTNF モノクローナル抗体 (関節リウマチ、活動期クローン病、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎)

炎症性サイトカインであるTNF をターゲットとした抗TNF 抗体で、早く強力な効果と、1回の投与で2カ月間効果が持続するという点が特長である。2007年1月にベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎の効能が追加され、同年11月にクローン病に対する維持療法が承認された。2009年7月に関節リウマチにおいて投与量の増量や投与間隔の短縮ならびに関節破壊の抑止効果が承認された。

オリジン：(米)セントコア

ラジカット (2001年6月発売) 【薬効】フリーラジカルスカベンジャー (脳保護剤)

我が国で開発された世界初の脳保護剤 (フリーラジカルスカベンジャー) であり、脳梗塞急性期の患者における神経症候、日常生活動作障害、機能障害 (退院時の後遺症の程度) を改善する。脳梗塞の3つの主要病型 (ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症) いずれにも適応がある。発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内。

アンブラーグ (1993年10月発売) 【薬効】5-HT2ブロッカー (抗血小板剤)

閉塞性動脈硬化症 (ASO) など慢性動脈閉塞症に対する治療薬 (経口抗血小板薬) である。セロトニンにより増強される血小板凝集、血管収縮、血管平滑筋細胞増殖を抑制することにより慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛、冷感等の虚血性諸症状を改善する。特に側副血行路の血流を改善する。2007年8月に高齢者にも服用しやすい小型化錠が承認された。

セレジスト (2000年9月発売) 【薬効】脊髄小脳変性症治療剤

脊髄小脳変性症による運動失調に対し、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) が有効であることは既に確認されていたが、これまでは注射剤のみであった。自社技術によりTRHを誘導体化し、経口投与を世界で初めて可能にした。2009年6月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、10月に発売した。

ウルソ (1962年7月発売) 【薬効】肝・胆・消化機能改善剤

本剤の主成分ウルソデオキシコール酸 (UDCA) は、古くから消化器症状の改善に用いられてきた熊胆 (クマノイ) が薬効の起源であり、ヒト生体内に存在する胆汁酸の一つである。本剤は肝細胞を保護する作用をもち、慢性肝疾患・C型慢性肝疾患における肝機能の改善、胆石の溶解等の効能をもち。

デパス (1984年3月発売) 【薬効】精神安定剤

国内で最も汎用される抗不安薬。強力な抗不安作用に筋緊張緩解作用、鎮静・催眠作用を併せ持つため、心身症、神経症だけでなく、腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛、うつ病ならびに睡眠障害にも効果が認められている。

タナトリル (1993年12月発売) 【薬効】アンジオテンシン変換選択性阻害剤 (高血圧症治療剤)

確実な血圧降下作用および高い臓器保護作用を有しながら、この種の薬剤に一般的な副作用である空咳の発生頻度が少ない。2002年には日本で初めて1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症への効能を追加した。

ヘルベッサー (1974年2月発売) 【薬効】カルシウム拮抗剤 (狭心症・高血圧症治療剤)

世界110カ国以上で使用されている代表的なカルシウム拮抗剤。血圧降下作用に加え、心拍数を抑えて心臓の負担を軽減し、冠血管拡張作用により酸素供給を増加させる。狭心症や高血圧症において心臓をやさしく保護する効果がある。

メインテート (1990年11月発売) 【薬効】選択的 β_1 遮断剤 (高血圧症・狭心症・不整脈治療剤)

世界85カ国以上で使用されている代表的な β_1 遮断剤。極めて高い β_1 選択性と良好な薬物動態を示し、高い有効性と安全性とともにエビデンスに基づいた心保護効果を有する。

オリジン：(独)メルクKGaA

ヴェノグロブリン-IH (1992年1月発売) 【薬効】血漿分画製剤 (液状・静注用免疫グロブリン製剤)

国内の献血血液を原料として製造された人免疫グロブリン製剤。免疫グロブリンの持つ4つの作用 (オプソニン作用、毒素やウイルスの中和作用、免疫溶菌作用、抗体依存性細胞傷害) により、抗菌薬と併用することで重症感染症に対する効果を発揮する。

< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料

タリオン (2000年10月発売)【薬効】アレルギー性疾患治療剤

抗ヒスタミンH₁作用の発現が早くみられ、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に即効性を発揮。一方で、眠気の発現頻度が低い。2007年3月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、7月に発売した。
オリジン：宇部興産 開発：共同

リブル (1988年11月発売)【薬効】プロスタグランジンE1製剤

世界初の静注用プロスタグランジンE1のDDS(ドラッグ・デリバリー・システム)製剤。血管に直接作用し拡張させることにより慢性動脈閉塞症、糖尿病における皮膚潰瘍等の末梢循環障害を改善する。DDS化によりPGE1の治療上の有用性を最大に引き出し、投与時のデメリットを最小化することに成功した。

サアミオン (1988年6月発売)【薬効】脳循環・代謝改善剤

脳循環・代謝改善作用を有する薬剤。脳梗塞後遺症の治療薬として処方されている。1998年に厚生省によって行われた再評価において、有用性が再確認されている。また、「脳卒中治療ガイドライン2004」において、脳梗塞慢性期の治療薬として推奨されている。
オリジン：(米)ファイザー

ノイアート (1987年6月発売)【薬効】血漿分画製剤 (血液凝固阻止剤)

国内の献血血液を原料とした人アンチトロンピン 製剤。人アンチトロンピン を高純度に含有するDIC治療剤である。トロンピンをはじめ幅広くセリンプロテアーゼ活性を阻害することにより強力な抗凝固作用を発揮する。

オメプラゾン (1991年4月発売)【薬効】プロトンポンプインヒビター (消化性潰瘍、胃食道逆流症治療剤)

胃酸分泌の最終過程であるプロトンポンプの働きを阻害することにより、強力かつ持続的に胃酸分泌を抑制する。世界初のプロトンポンプインヒビターである。消化性潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症に優れた効果をもつ。さらに、2007年5月に非びらん性胃食道逆流症が、8月にヘリコバクターピロリの二次除菌療法に係る用法用量追加が承認された。
オリジン：(英)アストラゼネカ

ノバスタン (1990年6月発売)【薬効】選択的抗トロンピン剤

化学合成された選択的抗トロンピン剤。1990年6月に上市され、「慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍、安静時疼痛ならびに冷感の改善」、「脳血栓症急性期に伴う神経症候、日常生活動作の改善」、「先天性アンチトロンピン (AT) 欠乏患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止」に使用されている。2008年7月に「ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) 型における血栓症の発症抑制」についても効能を取得した。海外では、2000年に米国FDAにより「ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) における血栓症の予防及び治療」の効能・効果が承認され、以来、海外9カ国において同効能・効果で承認されている。

ミールビック (2005年12月発売)【薬効】麻しんおよび風しんの予防

麻しんと風しんの予防接種が同時に行え、接種者の負担が軽減できる乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン。麻しんおよび風しんの予防接種率の向上が期待される。
製造：阪大微生物病研究会

その他

1. 株式の状況

発行済株式数

	2009年9月末	2009年3月末
期末発行済株式総数	561,417,916	561,417,916
期末自己株式数	247,110	252,197
期末発行済株式数	561,170,806	561,165,719
期中平均自己株式数	254,633	225,436
期中平均株式数	561,163,283	561,192,480

配当金推移

	2005年度	2006年度	2007年度(注1)	2008年度(注2)	2009年度2Q末(注2)	2009年度予想(注2)
1株当たり年間配当金(円)	20	24	26	28	14	28
配当性向(%)	32.0	29.1	33.2	37.6	42.3	36.9

(注1) 配当金は、田辺製薬の中間配当金(13円)と田辺三菱製薬の期末配当金(13円)を用いている。また、配当性向は田辺三菱製薬の下期の当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益と期末配当金から算出している。

(注2) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益と年間配当金から算出している。

大株主の状況

順位	株主名	2009年9月末		2009年3月末		
		持株数 千株	持株比率	(順位)	持株数 千株	持株比率
1	三菱ケミカルホールディングス	316,320	56.34%	(1)	316,320	56.34%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行	30,905	5.50%	(2)	28,293	5.04%
3	日本マスタートラスト信託銀行	26,200	4.67%	(3)	25,355	4.52%
4	日本生命保険	15,875	2.83%	(4)	16,268	2.90%
5	三菱東京UFJ銀行	12,089	2.15%	(5)	12,089	2.15%
6	ザチエスマンハットンバンク エヌエイロンドンエスエルオムニバス アカウント	8,620	1.54%	(6)	9,232	1.64%
7	ニプロ	8,030	1.43%	(7)	8,030	1.43%
8	資産管理サービス信託銀行	5,520	0.98%	(10)	4,215	0.75%
9	東京海上日動火災保険	5,218	0.93%	(8)	5,218	0.93%
10	みずほコーポレート銀行	4,333	0.77%	(9)	4,333	0.77%

所有者別株式数分布状況

	2009年9月末			2009年3月末		
	株主数 名	株式数 千株	構成比	株主数 名	株式数 千株	構成比
金融機関	77	118,721	21.18%	72	113,941	20.33%
外国法人等	396	70,251	12.53%	380	72,756	12.98%
個人・その他	10,342	29,310	5.23%	10,930	30,342	5.41%
その他の法人	233	341,076	60.85%	239	341,051	60.85%
金融商品取引業者	38	1,129	0.20%	44	2,383	0.43%
合計	11,086	560,487	100.00%	11,665	560,473	100.00%
単元未満株式の状況	-	930	-	-	944	-

* 1単元の株式数は1,000株

(注)個人・その他には、自己株式(2009年9月末247千株、2009年3月末238千株)を含む。

外国人持株比率

2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末	2008年3月末	2009年3月末	2009年9月末
22.26%	30.14%	31.18%	36.21%	15.80%	12.98%	12.53%

2. その他関連データ

従業員数(就業人員数)推移

(単位:人)

	2006年3月末	2007年3月末	2008年3月末	2009年3月末	2009年9月末	2010年3月末 予想
田辺三菱製薬			10,361	10,030	9,399	9,350
(単独)	()	()	(6,266)	(5,715)	(5,369)	(5,150)
田辺製薬	4,512	4,554				
(単独)	(2,993)	(3,033)	()	()	()	()
三菱ウェルファーマ	5,902	5,907				
(単独)	(3,575)	(3,488)	()	()	()	()

2009年4月以降のトピックス

2009年 4月1日	連結子会社である田辺製薬販売と、長生堂製薬の販売子会社である長生薬品が合併し、新生田辺製薬販売が発足
4月10日	「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第IX因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」に基づき、当該給付金支給等業務に要する費用負担の方法および負担割合について、厚生労働大臣より当社費用負担に関する基準が告示される
5月15日	5月15日に薬価収載されたジェネリック医薬品6成分13品目を新発売
5月20日	抗サイトメガロウイルス化学療法剤「バリキサ錠450mg」に関し、「臓器移植および悪性腫瘍におけるサイトメガロウイルス感染症」について効能・効果の追加承認を取得
6月19日	代表取締役社長に土屋裕弘が、代表取締役副社長執行役員に下宿邦彦が就任
7月1日	米国において、医薬品販売会社「MT ファーマ アメリカ」を設立
7月7日	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」について、関節リウマチに係わる「効能・効果」ならびに「用法・用量」の一部変更承認を取得
7月27日	電気自動車「i-MiEV(アイ・ミーブ)」によるMR活動を開始
7月30日	C型慢性肝炎治療薬MP-424について、米国ヴァーテックスとの間でライセンス契約変更を締結
8月18日	高コレステロール血症治療剤「ピタバスタチンカルシウム」(日本国内での販売名:リバロ錠)について、興和と台湾およびインドネシアを対象とした独占的開発・販売実施権の許諾に係るライセンス契約を締結
10月1日	本社を大阪市中央区北浜へ移転
10月1日	当社が取扱う長期収載医薬品4製品を連結子会社である田辺製薬販売に販売移管
10月1日	大阪工場を会社分割し、連結子会社である田辺三菱製薬工場に承継
10月1日	プロトンポンプ阻害薬3成分・4ブランド(当社販売名:オメプラゾン)について、ヘリコバクター・ピロリの除菌療法に係る効能・効果の追加申請を、3剤併用療法に係る9社共同で行う
10月1日	本年7月に設立した「MT ファーマ アメリカ」など、米国グループ会社3社の社名を変更
10月5日	慢性腎不全用剤「クレメジン」について、クレハと日本国内における販売権取得に関する契約を締結
10月26日	当社が2009年9月より販売している経口脊髄小脳変性症治療剤「セレジスト錠5」について、新たに口腔内崩壊錠である「セレジストOD錠5mg」を新発売

本資料に関するお問合せ

広報部

TEL 06-6205-5211 FAX 06-6205-5105